

令和6年10月31日発行

学校だより 11月号
東久留米市立第五小学校
副校長 新野 妙子



五小だより



学校創立60周年集会

～10月31日は、第五小学校の創立記念日です～

副校長 新野 妙子

10月に入っても暑い日が続いていましたが、最近ではひんやりとした空気を感じ、街路樹の色づく様子から秋の訪れを感じるようになりました。先日、私の実家に行き片付けをしていたときのこと。押し入れに、お世話になった先生や保護者、友達、そしてたくさんの子もたちからの手紙が大切に保管されていました。片付けを後回しにして手紙を読みふけていると、ルーズリーフ（穴が開いたノート用紙）が2枚重ねて折りたたまれているのを見つけました。手紙かと思い開いてみると、谷川俊太郎さんの「生きる」が私の字で書かれていました。中学生の頃に書き写したものと思われます。というのも、中学の国語の授業で「生きる」を学ぶ機会があり、この詩に心を強く打たれた記憶があります。国語の先生から谷川俊太郎さんの詩集を借りて読んだことを思い出しました。第五小学校が創立60周年を迎えたタイミングでこのルーズリーフを発見するとは、正直驚きました。第五小学校に着任したことも運命的なものを感じ、感激しました。

10月19日（土）には「学校創立60周年集会」が盛大に行われました。多くの保護者の皆様にもオンラインを通じてご鑑賞いただき、ありがとうございます。1年生から6年生までが体育館に集まり、それぞれの発表を行いました。1年生は「ののほな・いるか」、2年生は「かっぱ」、3年生は「鉄腕アトム」、4年生は「ともだち」、5年生は「こころの色」、6年生は「信じる」。どの発表も谷川俊太郎さんの詩に触れた内容でした。谷川俊太郎さんは92歳になった今でもお元気にご活躍されており、多くの方々の心に感動を与え続けています。

同じ日に学校評議員会が開催されました。その中には、すでに閉校になってしまった小学校ご出身の方もいらっしゃいました。その学校の歌詞も谷川俊太郎さん作だったそうです。何十年たっても校歌のフレーズを忘れず、目を閉じると校舎や校庭の様子が浮かんでくるとお話しされていました。創立60周年をお祝いする活動を通じて、子どもたちの心に第五小学校の校歌や作詞者の谷川俊太郎さんのこと、地域のよさが強く刻まれ、きっと何かの機会に第五小学校のことを思い出し、慈しんでくれることと思います。

また、当日ご出席くださった第五代校長齋藤先生から、後日このようなお手紙が届きましたので抜粋してご紹介いたします。

「素晴らしい60周年を祝う会にお招きいただきありがとうございます。東京の多くの学校にお邪魔する機会があるのですが、教育の基本である見て身に付ける、聞いて身に付けるという一番大切なことが全学年しっかりと身につけている五小の子どもたちは、『東京一』だと我ながら感激しました。」とのお褒めのお言葉をいただきました。今年度の取り組みが、さらに五小を大切にする心、地域を愛する心の育成につながることを願ってやみません。

11月16日（土）には、「学校創立60周年学芸会」が開催されます。60周年をお祝いする内容にもなっておりますので、ぜひご鑑賞いただければ幸いです。